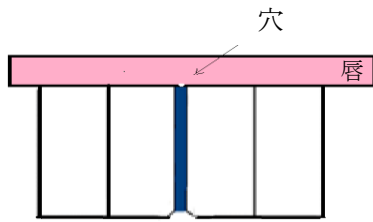


(15) 詰めた上方に小さい穴ができた。



練習を重ねるうちに、詰めた上方にごく小さい丸い穴が自然にできた。

穴ができた原因（現在考えられる理由）

ここに息の圧力がかかっている。

詰めた所の劣化により歯茎との間に隙間ができた。

この穴は、唇が振動しやすい状態を作るための助けになると思われた。

これまでの実験結果より

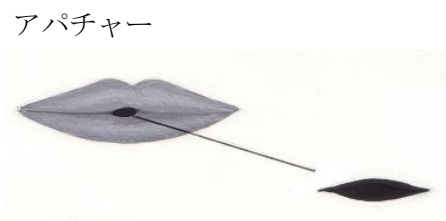
- ① アパチャーを楕円形にするためには、唇や唇の回りの筋肉のコントロールだけでは不可能であり、吐く息の形を楕円形にすることにより可能と思えた。
- ② 上歯中央2本の下で、音域・音色が変化すると思えた。

《参考》

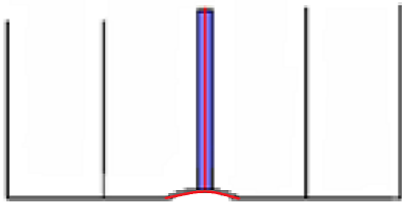
肺から送られてきた空気は、唇を振動させながら外に出ます。この唇の空気の出口をアパチャーといいます。アパチャーの形はオーボエとかファゴットのリードを上から見た楕円形に似ています。

形状は音色に関係しており、特に悪い場合は雑音が入ったりします。

アパチャーは高音では小さく低音は大きくなります。また、音量では基本的には変化しません。



(16) 楕円



楕円の息を吐くために歯の隙間を楕円の上半分にした。

結果

低音から高音まで、息が無駄なく唇の振動に変化するように感じた。
高音は Es 音が出た。F 音に必要な速い息は出せたが唇が対応できなかった。
ペダルトーンを含め低音は音がまとまり、音に芯が出た。

高音だけでなく低音も変わった事に驚いた。
B 音を出すのに苦労していたのが信じられない**衝撃的な結果**。

この状態で練習できたら、今まで不可能であった難曲演奏や、オーケストラ奏者として、十分対応出来るようになると考えた。

数年間、楕円の形と大きさを調べる事を行った。
(楕円の上半分であるが以下楕円と書きます。)

次回は楕円の報告です。